令和５年度　校内研修計画

甲州市立勝沼小学校

**１**　**学校課題**

　勝沼地区は、学校と地域との結びつきが強く、保護者は学校教育に深い理解と関心をもち、様々な活動に協力的である。児童数は１３４名で、どの学年も人数は２０数名であるが、社会の変化に伴い、児童一人ひとりの個性は多様化し、学習意欲や学習能力の個人差も大きい。

**２　研究主題**

|  |
| --- |
| **学習者主体の授業づくりをとおした、児童の資質・能力の育成**  ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら～ |

**３**　**主題設定の理由**

（１）学校教育目標具現化の立場から

本校の学校教育目標は「『かしこい子』を育てる」である。具体目標として「考えて学習する子ども」「強くたくましい子ども」「温もりのある仲間づくりのできる子ども」「真心をもって行動できる子ども」の４つが掲げられている。知・徳・体の調和のある人間性豊かな児童の育成を具現化するために、「知」においては基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と学習の基盤となる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・問

題解決能力）の育成が重要である。

（２）今日的課題から

ここ数年の本校の全国学力・学習状況調査の結果からは、｢記述式｣の問題形式において、読解力の低さや、与えられた条件に合わせて記述回答する力、示されたきまりを基に、問題解決の過程を式や言葉を用いて説明すること、「話すこと・聞くこと」の領域で、話し合いの大事な点に注目して意見を聞くことに本校の課題があることが明らかになっている。また、基礎的・基本的な知識・技能の定着や、それらを活用して、見通しを持たせた上で、課題を解決する力の個人差が大きいことも挙げられる。また、昨年度実施した児童への学習アンケート（６月・１０月・1月実施）の結果では、「難しい問題でも最後まで諦めないで解こうとしている」「自分の考えを友達にわかりやすく説明している」「授業で発言したり質問したりよくしている」の３項目に課題が見られた。

これらの児童の実態から、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けつつ、それらを活用し、自分なりに考えて最後まで諦めないで課題を解決したり、自分の考えを他人に表現したり、新たな問いを見つけて次の学習課題を設定したりする力を育成することが必要となってくる。

（３）これまでの本校の研究から

　本校は、自ら考え、進んで表現できる児童を育成するために、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の工夫と改善について、算数科から各教科へと実践を広げてきた。昨年度はこれまでの研究の成果を生かし、「『甲州市Teacher’s Note』の共通理解と活用」「問い返しの発問を意識した授業実践」「対話活動を仕組む工夫（ICTの活用を含む）」を継続しながら、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着と、身に付けた知識・技能を活用し、自分なりに考えて最後まで諦めないで課題を解決したり、自分の考えを他人に表現したり、新たな問いを見つけて次の学習課題を設定したりする力の育成を目指して研究を進めてきた。今年度は、昨年度の研究成果をベースに、社会科、外国語科を中心に学習者を主体とした授業改善を図っていく。また、各教科の見方・考え方を働かせながら、「個別最適な学習」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることで、本校児童の課題である学習意欲や学習の定着の個人差、自分の考えを他人に表現する力を高められるのではないかと考え、この主題を設定した。

**４　研究の具体的内容と方法** 【　】内は方法を示す

①児童の実態把握と分析（WEBQU・学習アンケート）【ブロック研・全体研での分析】

②「学習者主体の授業改善をとおした、児童の資質・能力の育成」についての理論研究や学習会【全体研での理論研究・講師招聘による学習会】

③「学習者主体の授業改善をとおした、児童の資質・能力の育成」に向けた授業研究（研究授業・一人一実践授業）【ブロック研究会・全体研究会での指導案検討／講師を招いての授業研究会】

④〇〇タイム・〇〇検定の実施

●授業内で自らの課題に沿った学習の実施。

●児童が自らの興味関心に沿った課題を選択し、挑戦する時間。（年３回。朝活動。）

●各教科の検定を全校で実施

⑤甲州市「確かな学力」育成プロジェクトと連携した研究【全体研での理論研究・講師招聘による学習会】

　＊一人一実践の授業改善・指導案作りは個人研究とする。

５　年間研修計画

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 回 | 月／日 | 主　な　内　容 | 形態 | TC要請 |
| 1 | 4/4 | ◇昨年度の研究について、今年度の方向性 | 全体 |  |
| 2 | 4/12 | ◇学校課題、研究主題、年間計画等の概要の決定 | 全体 |  |
| 4 | 5/12 | 甲州市「確かな学力」育成プロジェクト教育講演会 |  |  |
| 5 | 5/17 | ブロック交流➀ |  |  |
| 6 | 5/24 | ◇研究内容・方法について | 全体 |  |
| 7 | 5/31 | ◇WEBQUの分析・児童の実態把握➀ | ブロック |  |
| 8 | 6/7 | ◇学習会「学習者主体の授業改善について」 | 全体 | ◯ |
| 9 | 6/21 | ◇アタックシートの共通理解➀ | 全体 |  |
| 10 | 6/28 | ◇学習会「学習者主体の授業改善について」 | 全体 | ○ |
| 11 | 7/5 | ◇学習アンケート①結果と分析 | 全体 |  |
| 12 | 7/19 | ◇学級づくりアタックシート「2学期に向けて」作成 | 個人 |  |
| 13 | 8/23 | ◇学習会「学習者主体の授業改善について」 | 全体 | ◯ |
| 14 | 9/6 | ◇学習会「学習者主体の授業改善について」 | 全体 | ◯ |
| 14 | 9/13 | ◇研究授業に向けて | ブロック |  |
| 15 | 9/27 | （◇一人一実践授業に向けて） | （個人） |  |
| 16 | 10/11 | ◇指導案検討 | 全体 |  |
| 17 | 10/18 | 甲州市「確かな学力」育成プロジェクト教育講演会 |  |  |
| 18 | 10/25 | ◇指導案検討 | 全体 | 〇 |
| 19 | 11/2 | ◇WEBQUの分析・児童の実態把握② | ブロック |  |
| 20 | 11/8 | ◇研究授業 | 全体 | ○ |
| 21 | 11/15 | ブロック交流② |  |  |
| 22 | 12/13 | ◇アタックシートの共通理解② | 全体 |  |
| 23 | 1/17 | 甲州市「確かな学力」育成プロジェクト教育講演会 |  |  |
| 24 | 1/31 | ◇今年度の研究の振り返り | 全体 |  |
| 25 | 2/7 | ◇学習アンケート②結果と分析 | 全体 |  |
| 26 | 2/21 | ◇今年度の研究のまとめ・来年度に向けて | 全体 |  |
| 27 | 2/28 | ◇研究紀要作成 | 個人 |  |
| 28 | 3/6 | ◇CRT調査の結果を受けて | 全体 |  |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　（研究主任　保坂洋仁）